

ペルー蒸留酒 沖縄に

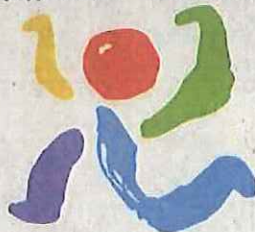
グスクマさん親子製造



南米ペルーで蒸留酒「ピスコ」を製造・販売する県系2世のグスクマ（城間）・ミゲルさん（63）、カルロスさん（28）親子が第5回世界のウチナンチュ大会を前に9日、父親の出身地・北中城村で独

自商品「ピスコ・グスクマ」を県内で初披露した。ペルーでピスコを製造する日系人はグスクマさん親子のみ。商品のPRにと県内有志が同村役場前に大看板を設置した。ミ

世界のウチナンチュ大会



2011.10.12~16

ゲルさんは「沖縄でピスコを紹介できたことは光栄。現地の1世もみんな帰郷したようなものだ」と喜び、「苦勞した県系人の汗と涙を感じてほしい」とアピールした。

父・仁龍さん（故人）は1932年、ペルーに移住し、南部のカニエテ市で農業を営んだ。ミゲルさんは10畝の農場で20年前からブドウを生産、2000年ごろからブドウ由来の蒸留酒・ピスコを製造・販売するようになった。

ピスコはペルーで最も愛飲され、ブドウの香りやきれいな味わいが特徴。グスクマさんの会社「ラウカ」は、年間1万5千本（1本750ミリ）

を販売しているという。ミゲルさんと息子ら4人で経営し、原料から酒づくりまで自社で一貫製造している。減農薬のブドウを使い、人工のアルコール、甘味料を加えない製法にこだわり「体に優しい酒に仕上がっているという」。

日本では南米日系人農家の支援や食料確保に取り組む岐阜県のギアリンクスの中田智洋社長が2年前にミゲルさんとの出会い、昨年から輸入販売している。県内企業と取引のある中田社長の呼び掛けで、「ピスコを沖縄に紹介する会」が発足し、試飲会を企画した。

中田社長は「ペルー人が沖縄に来て泡盛を造るようなもので、堅実なグスクマさんにひかれた。古里でもあり焼酎文化のある沖縄で普及してほしい」と話した。

試飲会には約150人が集まり、ペルー同様にカクテル風にアレンジしたピスコを味わった。今後、県内での販売を検討する。

商品の問い合わせはギアリンクス、電話0573(62)1545。

沖縄タイムス

2011年10月11日(火)